

## 県内大学の訪問結果について (報告)

### ○ 訪問先

- ・ 令和元年 8 月 28 日 (水) 秋田大学 学生支援・就職課
- ・ 令和元年 9 月 4 日 (水) 秋田県立大学 秋田キャンパス キャリア支援チーム
- ・ 令和元年 9 月 11 日 (水) 秋田県立大学 本荘キャンパス キャリア支援チーム

### ○ 訪問の趣旨

官民連携による人材確保プロジェクトの取組 (社長会議など) について説明し、アンケート結果やこれまでの社長会議で出た次の内容を伝えた。

- ・ 県内企業では大学生の採用について、苦戦が続いている。
- ・ 県内企業が個別に採用活動をしていても県外大手企業の知名度に押されている。
- ・ 大学において、社長会議参加企業の説明会等の P R の機会を、県外企業が入らない形で設けることができないか検討を要請。

### ○ 訪問結果の概要

- ・ 大学としては学生の進路を希望どおりに叶えてあげることが第一で、その中で可能な範囲で県内就職率を増やしていくという考え方。
- ・ 大学側では、採用実績や待遇、離職率、学生の希望などから学生に紹介する企業をある程度決めている。例えば、離職率の高い企業を学生に紹介はできないが、ユースエール認定企業 (若者の採用・育成に積極的で、若者の雇用管理の状況などが優良な中小企業を厚生労働大臣が認定する制度) であれば紹介しやすいとのこと。
- ・ 社長会議では学生への P R 機会を求めているが、大学としては、売り手市場のせい、説明会等の事業を行っても参加者集めに苦労している状況。
- ・ マイナビ等もイベントを開催しており、学生から見るとイベントがあふれている。
- ・ 各大学に来年度のイベント実施について検討していただいたが、難しいとのこと。



○ 各大学のコメント

項目	秋田大学	秋田県立大学（秋田キャンパス）	秋田県立大学（本荘キャンパス）
県内就職の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育文化学部は県内出身者が多く、理工学部は県外出身者が多い。平成30年度は大学全体での県内出身者は39%。（学生数は約4,000人）<u>県内就職率は37%。県内出身者が多い学年は県内就職率が上がる傾向。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内就職率の中期目標は30%で今年目標は24%。秋田キャンパスの学生で県内就職を希望しているのは33%。</li> <li>・秋田キャンパスは農学系で県内出身者が約4割。農業、食品、医療をキーワードに学んだことを活かしたいという学生が多いように感じる。<u>秋田キャンパスは比較的地元志向が強い。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本荘キャンパスは県内出身者が3割を切っている。県外出身の学生が県内就職するのは年に1～2人なので、県内出身者をいかに県内に残すかが鍵。<u>工学系（機械、建築）の生徒ほど大手志向が強い。</u></li> <li>・県内就職率は15%位で推移していたが、今年は20%に届くかといったところ。県内出身者の県内就職率は50%位。ここ数年はやや下がっていたが、今年は戻した感じ。</li> <li>・建築系は特に厳しい。</li> </ul>
県内就職促進に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県と共同で「ものづくりオープンカレッジ」や「秋田女子活交流会」といった事業を行っている。</li> <li>・<u>県内企業にもインターンシップの受入体制を整えてもらっているが、TDKなどの有名企業を除き学生が参加しない企業も多い。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年から本荘キャンパスで行っていた企業見学を秋田キャンパスでも実施する。</li> <li>・県立大の教職員と企業の採用担当で生物資源学部採用情報交換会を開催している。OB・OG懇談会や県内企業説明会等も実施。</li> <li>・1～2年生向けの企業説明会としては「ものづくりオープンカレッジ」を行っている。</li> <li>・<u>ジョブシャドウイングも1～2年生対象。参加した学生の県内就職率は高い。</u>元々県内志向の学生が参加しているのかもしれないが、全国的に地元就職率が落ちている中で、本学は横ばいかやや上がっており、効果があると捉えている。学生の満足度も高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業見学バスツアーを昨年から実施。現場を見て、OB・OGとの懇談を設けた。合計で約60人が参加。</li> <li>・昨年は県内出身者全員と面談し、学生の希望を把握した。県内企業を紹介するのに役立った。</li> <li>・本荘キャンパスでも秋田キャンパスと同様に採用担当者との情報交換会を行う。</li> <li>・工学科の授業で県内企業をまわることもある。TDKや火力発電所など。</li> <li>・4月から県立大で卒業生向けにAターン支援を行っている。</li> </ul>

項目	秋田大学	秋田県立大学（秋田キャンパス）	秋田県立大学（本荘キャンパス）
<p>学生が県外に流れる要因</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体として売り手市場ということもあり、県外企業も採用に苦戦しているが、<u>首都圏の大手企業はネームバリューがあるため学生の目がそちらに向いてしまう。待遇や給与面も県内企業よりも良い。</u></li> <li>企業説明会での県外企業の資料は見やすく作り込まれており、説明でも資料の棒読みでなく流暢に説明するなど、学生が気を引かれるのもわかる。</li> <li>学生に話を聞くと、1回は秋田から出てみたいという人も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終的な意思決定は学生がするため、県内就職にあまりこだわらない学生は、業務や待遇が同じであれば、本荘在住の人が湯沢ではなく酒田の企業を選ぶこともある。そうすると県内就職が1人減ることになる。</li> <li>企業見学で職場を見てもらうとマイナス面もある。建物がプレハブだったりすると、首都圏のカフェもあるきれいなオフィスとの比較で学生はそちらに向いてしまうこともある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここ数年は売り手市場のため、普段は内定をもらえないような<u>大手企業からも内定が出ており、学生もそちらに気を引かれている。</u></li> <li>学生は1度県外に出ても簡単に県内に戻って就職できると安易に考えている。経済環境の変化や家族状況などで簡単にはいかないと説明しているが、理解してもらえない。</li> <li>小学校、中学校のふるさと教育で秋田を好きだという気持ちにしなくてはいけない。</li> <li>親世代が秋田にマイナスイメージを持っているのも良くない。</li> </ul>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リクナビ、マイナビを含め学生向けの就活関連イベントが多く、学生もどれに参加すればよいか迷っている状況。リクナビ等のイベントは仙台等の遠隔地で開催する場合でも、秋田からバスを出して学生が参加しやすくなるような工夫をしている。</li> <li><u>就活関連イベントへの学生の集まりが悪くなっている。</u>周知は学生用ポータルサイトと紙媒体での掲示。それでも集まらない場合は、直接声をかけることもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>学生を就活関連イベントに参加させるのに苦勞しており、メールを送ったり、窓口に来た生徒を誘ったりしているが、あまりしつこいともっと参加しなくなるだろうから難しいところ。</u></li> <li>10月に先生が学生と面談して希望職種、勤務地などを聞くので、そこから就活イベントの内容に合致する学生を抽出して、メールを送ったりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社長会議参加企業に学生が興味を持った場合は、仲介をお願いしたい。</li> <li>大学が行う就活関連イベントの企業の選定は学生のアンケート結果に基づき、学生の希望に添うように行っている。</li> <li><u>就活関連イベントの参加者集めに苦勞しているが、イベントに参加した学生がそのまま内定につながったケースもある。</u></li> <li>学生は3年生の前半頃から就職の意識が高まってくる。本格的な活動に入る前の12月に県の移住・定住促進課が実施している業界研究セミナーは時期的にも良いと思う。昨年は本荘キャンパスからもバスを出して30人位が参加した。</li> </ul>